

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472800364	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	令和2年4月1日
法人名	医療法人社団三喜会		
事業所名	グループホーム渋沢		
所在地	(259-1326)		
	神奈川県秦野市渋沢上1-13-28		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	2023. 2. 3	評価結果 市町村受理日	令和5年5月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域に密着した施設を目指し、2001年に開設し、ホームより丹沢の山並みを見渡す環境の下、家庭的でゆったりとした雰囲気大切にしています。ひとり・ひとりの認知度や症状、性格や身体状況に配慮し、個々の想い（不安）を受け止め、ひとり・ひとりに合わせたプランを作り、ホーム内には、季節を感じる飾り付けや季節の味覚を楽しむ食事等、今（その時）を楽しむ環境作りを心掛けています。2020年2月より、法人居宅サービス部感染対策委員会と連携し、感染予防対策を強化しながら、今まで秦野市内の色々場所へお出かけしていましたが、外出は自粛し、ホームの周りを散歩、役割活動（簡単なはき掃除・お花に水やり・テーブル拭き・洗濯物たたみとお部屋への格納色々）を積極的に行い、家族やボランティアさんが来所できない中、イベントは欠かさず行い、スタッフによる、手品・漫才・寸劇・棒体操・流しそうめん・〇×クイズ等、コロナ禍前より楽しいイベントが増えています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年3月9日	評価機関 評価決定日	令和5年5月1日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小田急線「渋沢」駅から歩いて10分程の高台にあり、間近に丹沢山塊を望むことが出来ます。建物は木造2階建てで、1階が1ユニットのグループホーム、2階が認知症対応型のデイサービスになっています。運営は神奈川県全域で医療・福祉サービスを提供している医療法人社団が行っています。

<優れている点>

1年かけて職員全員で作上げた、事業所独自の介護理念「家庭的な環境の中地域との結びつきを大切に一人ひとりの個性をいかし、笑顔と温もりのあるグループホームを目指します。」を意識の中心に据え、利用者の想いに寄り添うケアを実践しています。また毎月、居室担当職員は「ご家族連絡表」に利用者の日々の様子を自筆で丁寧書き記し、家族に伝えています。秦野市や渋沢地域高齢者支援センターなど、行政や地域と密接な関係を築いています。特に、管理者は、市の「認知症キャラバンメイト連絡会」の役員として重要な役割を担っています。医療との連携を図り、病気や終末期を迎えた時にも、医師・看護師が即対応出来る体制が整っています。

<工夫点>

介護職員が利用者専心できるよう、調理専門職員を配しています。一般の家庭のように、全居室に畳が敷かれています。入浴時、座位をとることが困難な利用者には、リクライニング式の車いすで仰臥位で入浴しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム渋沢
ユニット名	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	2019年に新しい理念ができ、理念にある『笑顔と温もりのあるグループホーム』を目指し、毎月のカンファレンスで理念を確認し職員全員で理念を共有実践いたします。	「笑顔と温もりのあるグループホーム」を目指し、事業所独自の介護理念を1年かけて職員全員で作りました。当理念は、玄関や事務室に掲示のほか毎月行なうカンファレンスの議事録に記載し振り返り、日々のサービスに活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ前は、近隣に小学校・こども園があり、お祭りなどに参加していましたが、今年度は、ホームの前の地域の畑の方に野菜を貰ったり、スタッフが野菜の作り方を教わる程度の関わりしかできない状況です。	コロナ禍においても、管理者は、高齢者支援センター主催の地域会議に出席し、認知症の人への声掛け運動を行うなど地域活動を積極的に行っています。また隣接の畑で作った野菜を頂いたり、通学中の小学生と挨拶を交わすなど、近隣との関わりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が秦野市認知症キャラバン・メイト連絡会に所属していて、コロナ禍で以前とは違いますが、サーポーター講座を小人数で行い、地域の方へ認知症の理解を促している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は、秦野市より、新型コロナウイルス感染症対策の為中止との指示もあり中止中ですが、ホームの近況報告はお便りしています。	秦野市高齢介護課職員、渋沢地域高齢者支援センター職員、自治会長、家族の代表、法人の代表などが出席し2ヶ月に一度定期的に開催をしていましたが、秦野市からコロナ感染対策上、積極的な開催を見合わせるよう指示があり、開催の中止が続いています。	運営推進会議は、地域密着型のグループホームにとって重要な意味を持っています。対面式にこだわらず、書面による開催など、状況に合わせた再開催が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為いつものようにはいきませんが、管理者が秦野市認知症キャラバン・メイト連絡会の役員の為、市と渋沢高齢者支援センター（包括）とは常に連絡をしている。	管理者は、秦野市が認知症にやさしいまちを目指して立ち上げた「認知症キャラバンメイト連絡会」の役員として重要な役割を担っています。介護認定更新や事故報告書の提出などは、市役所へ直接出向き、情報交換と協力関係の構築に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	『身体拘束等適正化のための指針』を作り、毎月のカンファレンスで検討委員会を開き、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組む。	身体拘束等適正化の指針を整備しています。毎月行なうカンファレンスで身体拘束防止委員会を開催し、具体的な事例や対応方法について意見交換を実施し、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。家族の同意の下、ベットからの転落防止のためセンサーを使用しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のカンファレンスの際には、必ず虐待防止を取り上げ、早期発見、事前防止に努めています。虐待防止の勉強会もYouTube等も利用し、勉強会も実施	スピーチロック防止に注力し、「否定はダメ・だめだめはダメ」を心に刻み、職員同士で声かけを行っています。虐待行為に当たると判断した場合は、その場で即注意をしたり、後日カンファレンスで検討するなど、虐待防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が研修に参加しており、ご利用者様に必要が生じれば、市の担当者の協力を得て、制度を活用する準備ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約以前に、面談時や入居までの間、まず不安を抱えている、家族の話をしっかり傾聴し、認知症の説明（理解）をして、グループホームでの生活の理解を促している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年の外部評価のご家族のアンケート（ご家族の意見）はとても参考になり年度初めは必ずその意見を反映し目標にも入っている。今年度は担当者会議も1部対面で行えたが半分のご家族とは顔合わせての話が出来ず、電話やメールでの対応となる。	利用者の日頃の様子を居室担当職員が毎月「ご家族連絡表」で伝えていきます。また全体の様子は広報誌「渋沢ファミリー」でも伝えていきます。家族からの意見や要望は、利用者の顔を見るために来訪した時に直接聞いたり、メールを利用して対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	認知症介護においては、チームケアが基本で有る為、運営に留まらず、職員の意見を積極的に聞き、すぐに対応している。	チームケア実現のために、職員間の情報交換は「連絡ノート」を利用し行っています。管理者は、日頃のコミュニケーションに加えて、毎月のカンファレンスや年2回の個人面談時に、直接職員から気付きやアイデアを引き出しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価において、個々の得意、不得意を明確にしてあげ、チームケアでは人間関係が1番、カンファレンスはできるだけ全員が参加できるようにして、色々意見を出してもらい、全員で共有できる環境を作る。	就業規則は、いつ誰でも見ることが出来ます。健康診断は全職員を対象に年1回、夜勤従事者は年2回実施しています。職員がいつでも休憩出来る部屋をリビングに面して設けています。人事考課は法人指定の評価表や定期面接を通して、適正に実施されています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本年度も法人内の介護研修が中止となり、カンファレンスでの勉強会を実施『ケアとお世話の違い』を中心に悩める事例等の取り上げている。また今年度はターミナルの方があり、ターミナルケア会議を実施（そこでNSも参加して、下顎呼吸や看取りに対しての悩み、勉強会等）	法人による介護研修と事業所のテーマ別研修を行っています。現在はカンファレンスで行う勉強会が中心となっています。特に「お世話とケアの違い」や、「ターミナルケアなどより実践的な内容」に切り替えています。また管理者によるOJTもケアの充実に寄与しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ前は、市内のグループホームの管理者と交流し、意見交換等していたが、今年度は、できていない		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期は特に【 気配り・目配り・心配り 】を徹底し、『何が本人様にとって1番心地よいか』と考え支援しています。入居間もない時は、心細いのでさりげない声掛けや、入居前の環境との違い（在宅・施設・ショートステイ）を十分配慮する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に数回お会いし、ご家族の要望等をお聞きし、コロナ禍ではありますが、なるべく見学を実施、不安な点や他の施設とグループホームの違いや、個別対応等の説明等もしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、利用者と家族の状況を第一に考え、事業所だけで解決しようとせず、関係機関と連携を取り、他のサービスも視野に入れたり、病院でお薬の調整後、入居された事例もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	看取りも対応している当ホームは、『共に生きる』を合言葉に、ご利用者様と職員が同じ空間で笑い、同じものを味わい、感じる、理念に基づき暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族もチームケアの一員とし、コミュニケーションを意識的に取るよう心掛けています。面会時には、現状報告のみではなく、事例などを出しながら、認知症を理解して頂くお話も致します。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本年度は、コロナ禍でもあり、直接行ったり、会ったりできないので、馴染みの場所の話や、動画をみたり、DVDで対応、面会1部介助時、ご利用者様お孫さんが理容師になり初めて髪を切るのをおばあちゃんと決めていたので「夢」を叶える！	コロナ禍により、遠出の外出を自粛しています。施設周辺の散歩や、敷地内の畑仕事で外気浴をしています。そのほか全て屋内での生活となることから職員は、利用者が入居前に親しんでいた歌などの趣味や習慣を大切にしています。利用者の安全を優先し、日々寄り添いながら過ごしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を見極め、場面設定したり、座る席を考慮して、円滑な交流が図れるよう支援し、トラブルになりそうな場合は介入しています。レクリエーションや散歩等では、利用者同士のコミュニケーションを図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も困ったことや介護のことの相談を継続しています。終了後のご家族で認知症の理解者の方、コロナ前は地域住民代表で運営推進会議に参加していただいていたいました。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の重度化により、本人の意向が掴めない時は、その利用者が認知症でなかったら、どう判断するかが重要になるので、発症前の生活の様子を再度アセスメントしています。	利用者の希望や意向は、日々の業務を通じて把握するように努め、連絡ノートを活用し、職員間で共有しています。「畳の上に布団を敷いて寝起きをしたい」という利用者の要望を知った新人職員の提案で、ベッドを片付け畳での生活を実現した例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を把握し、能力が最大限に発揮できる生活が送れるように（自分らしく生きる）できること・できないことを見極めケアに活かしている。（私のことを良く教えてくださいシートをカ活用）		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	のんびり、ゆったりを基本に心地よい疲労感、活動ができるように個別にデイタイムケアプランをたてており、その場の状況に合わせて柔軟に行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画にあたっては、居室担当中心に全ての職員で意見を出し合い決めている。利用者の心身に変化が現れた際は家族、関係者等と話し合い、本人の負担を考慮し、新しい計画を作成している。	事業所所属の看護師、管理者、ケアマネジャー、居室担当の職員が参加するカンファレンスで話し合い、また連絡ノートに記録した家族の意見や要望を採り入れて介護計画を作成しています。適宜、見直しを行い、利用者の心身の変化に対応しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の様子を個別ケア記録に記入し朝・夕の申し送りや、カンファレンスにて情報の共有を図り、ケアプランの見直しの前に担当者会議（ご家族・ケアマネ・管理者）を行い直しする。コロナ禍なので、電話と書面上で行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療連携加算を受けており、1週間に2回看護師が対応し、ご利用者様健康維持に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会に加入しており、回覧板等により、地域の情報が入る。コロナ禍の為行事等は中止、ホームから地域の方々へ発信と9月（世界アルツハイマーデー月間）の際、今年度は、地域の公民館に認知症への理解を深めてもらうため、ポスターやリーフレットを掲示した。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	通院が困難な利用者が多く、その為往診を含めて協力医と情報交換をしながら、利用者の健康維持に努めています。協力医とは、細かいことも連絡し連携を図っています。	内科、精神科、歯科の協力医が、それぞれ月に一回、事業所を訪問しています。診察の結果は、連絡ノートを通じて事業所所属の看護師を初め、全職員で共有しています。外来受診は家族が対応できない場合は、職員が通院同行をすることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携加算を受けており、1週間に2回看護師が対応し、ご利用者様健康状態を確認、又具合の悪い方には、協力医の指示にて、訪問看護が入り支援しています（本年度は、褥瘡（ポケットあり）の方を対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、協力医に相談し、紹介状を書いていただき、入院の際は、ご家族が不安で管理者も同席し、Drの説明や退院に向けた情報交換をしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に重度化指針を書面でご家族に説明して了解を得ています。重度化した場合や終末期には、ご利用者様にとって、1番良いと思われる方法を家族や協力医等の関係者と相談して決めています。本年度は、ターミナルの方2名あり、1名看取りあり	喀痰吸引ほか、事業所での生活がむずかしくなった利用者に対しては、事業所を運営する医療法人の介護医療院で対応することができます。終末期を迎えた際には、家族、医師と話し合い、住み慣れた事業所で最期の時を過ごすことができるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事務所の目の付くところに緊急事対応マニュアル、入居者検索マニュアル、緊急連絡網を掲示、誰でも対応できるようにしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に防災訓練を行い、秦野消防本部に報告しています。法人で安否確認システムがはじまり、定期的にメールで模擬訓練を行う	夜勤者が一人で勤務をしている状況を想定した避難訓練を実施しています。また模擬消火器を使用した消火訓練を行う際には、地域住民も参加しています。出勤していない職員の状況が把握できるようにメールを利用した安否確認の模擬訓練も行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者様には、苗字に『さん』付けで呼ぶことにしており、人格を無視した言葉掛けや態度を取らないようにしています。また個人情報に関わるものは、事務所の鍵付きの棚に保管	職員の利用者に対する言葉掛けや態度に不適切な点があれば、すぐに注意をし合い改善していく職場風土ができています。ベテラン職員と新人職員がチームワークよく利用者に対する最適な接遇を実現しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の声に耳を傾け、何を望んでいるかを考え、話しやすい環境作りを心掛けています。馴染を作る関係作りが大切		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先になりがちな日々、毎月のカンファレンスでは、毎回この議題が上がる、日々変わるご利用者の状態に業務帯の内容を変更し、どの業務帯の職員もすぐにご利用者様に寄り添う対応ができるよう努力を重ねています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝のモーニングケアは、ご利用者様に合わせ、Bed上で行う人と洗面所で行う人と様々、3か月1回、訪問理美容が来所し、ご利用者様の希望に合わせたカットやカラーにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホームの畑で取れた野菜や地域の方に頂いた野菜を食卓へ、また秋はバルコニーで『秋刀魚』を炭で焼き、召し上がってもらい、味だけでなく、目でも楽しむ食事を心掛けている。	メニューの決定、食材の購入、調理をすべて職員が行っています。調理専門の職員も2名います。利用者の嗜好に合わせて白米をお粥にして提供するなど、個別対応をしています。事業所隣接の畑で利用者が育てた野菜を収穫、調理し食の楽しみを演出しています。	介護職員が身体介護業務に専心することができ、同時に利用者に対して食の楽しみを提供できるように、調理専門職員が継続的に業務を行っていくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量のチェック、栄養バランスを考えた献立を給食委員会がチェックをしながらメニューを決めている。水分はケア記録に記入し、不足気味の方にはお茶以外の飲み物等促したり試行錯誤する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行う、義歯が合わなく義歯なしの方も増え、ガーゼで拭う等、誤嚥防止の対応をとっている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間オムツの方は、日中はリハパンを使い、トイレ介助を行う。排泄チェック表を使ってトイレの間隔のある方には、声掛け誘導を行い、排泄パターンの把握に努める。	利用者の表情や姿勢の変化を見逃さず、排泄に誘導しています。就寝時はオムツを利用している場合でも、昼間はリハビリパンツを着用しています。立位がむずかしい利用者に対しては、職員が二人で介助することでトイレでの排泄に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便コントロールは特に大事で、9名様の排便状況を把握、常にNSと相談し下剤の変更や、浣腸・レシカル対応も視野に入れている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	1日3名の入浴、要介護度の高い方は職員2名対応で支援し、毎年、地域の方より頂く、『ゆず』でゆず湯、菖蒲湯などお楽しみ入浴日もあり。またBed上での全身清拭・ケリーパットを使った、洗髪等行っています。	座位をとることがむずかしい利用者に対しては、リクライニング式の車いすを利用して仰臥位で入浴ができるような工夫をしています。原則、午前中に入浴をしていますが、利用者のその日の気分に合わせて午後に入浴するなど臨機応変に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中、車椅子の方はソファへまた午後はお昼寝の方も増えてきました。就寝するまで落ち着かない方は、寄り添い、作業やパズルなど集中するもので対応するなど、その人に合わせた支援を心掛ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書をファイルし誰でも見れるようにしている。与薬を間違えないよう名前や色分けし、朝・昼・夕と個別のBOXを用意、内服時は、2名で声出しで、名前と日付けを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみ・洗濯格納・メモ紙作り等役割活動を通し張りやいや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本年度は、春の桜のお花見（ドライブのみ）秋の紅葉狩り（ドライブのみ）等感染対策を徹底し行いました。皆さんとても喜ばれました！	事業所近辺の外出レストランに予約をする際には、利用者が安心安全に食事を楽しめるような席を確保するように交渉しています。感染症対策をしたうえで、事業所近くのスーパーに買い物に出かけたりもしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナ禍ですが、車に乗りたい・ドライブしたい方、馴染の店にお菓子屋やパンを自分のお金で購入をする支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	面会禁止が続きご家族様にリモート（Zoom）等促しましたが、ホームからのお便り（写真付き）で十分とのご連絡を頂く。数名ですが、ご本人様と電話でのやり取りを行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ほとんどの方が、居室のエアコン（温度）管理ができず、冬なのに冷房を入れたりとあり、ケア記録に3時間おきの温度記録を取り管理をしています。	共有空間の壁に利用者が作成した折り紙等の作品が整然と展示され、明るく楽しい雰囲気を演出しています。ダイニングの隅には畳敷きの和室スペースがあり、利用者がくつろぐことができるよう工夫しています。キッチンからは共有スペース全体を見渡すことができ利用者を見守ることができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	以前、食堂と居間が一緒だったので、環境を変え分け、食後は、ソファにてゆっくりTVを見たり、お話したり、自分の時間を過ごしていただく、壁には、折り紙創作が得意なスタッフがおりご利用者様には、1人1人できる作業を促し、作品を完成させ、季節の飾りを貼り居心地の良い空間を作る。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、各個人の馴染の物、使慣れたものを持ち込んで頂く。新しく入居された方が、どうしても落ち着かなく、家では、布団だったことから、Bedではなく布団にしたり、家で使用していた、テーブルを置くと落ち着きをみせた。	全てのが採光がよく、明るい雰囲気の居室は畳敷きとなっています。入居前の生活から変化なく暮らすことで温かみももたらしています。利用者が使い慣れた家具を持ち込むことのできる十分なスペースが確保しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下・トイレ・浴室には、手すりがあり歩行不安定な方にも、安心して歩けるようにしてあります。トイレの場所が分からない方には、手作りの矢印や目印を置いています。		

2022年度

事業所名 グループホーム渋沢

作成日：2023年 5月 15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議昨年度まで、新型コロナウイルス感染症対策の為、中止していた。	今年度より、2ヶ月に1回、感染状況にもよりますが、対面での開催を目標にする。	4月上旬にメンバーに連絡を取り、1回目を4/27（木）に開催した。	1ヶ月
2	18	ご利用様の介護度も上がり、2022年度は、看取りも2件行う、調理専門の職員を入れ介護職員が調理をしない時間を増やす。	介護職員が身体介護業務とご利用者様に寄り添う時間を増やし、ご利用者様の「その人らしい生活」を援助する。	調理専門スタッフと介護職員の連携に3ヶ月に1度、給食委員会を行い、業務改善とご利用者様に合わせた食事の提供を実践する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月